

こども家庭センター

本人の幸せを想う気持ちはみんな一緒

基本機能

1 制度上の位置づけ

- ▶ 妊産婦、子育て家庭、こどもに対し、母子保健・児童福祉の両機能が一体的に相談支援を行う機関（母子保健法・児童福祉法）

* 母子保健機能

- ① 妊産婦及び乳幼児の実情把握
- ② 妊娠・出産・育児に関する各種相談・情報提供・助言・保健指導
- ③ サポートプランの策定
- ④ 保健医療又は福祉の関係機関との連絡調整

* 児童福祉機能

こどもと子育て家庭及び妊産婦等に必要な支援に係る業務全般を行う

- ▶ 事業内容は、
 - ①地域のすべての妊産婦・子育て家庭に対する支援
 - ②支援が必要な妊産婦や子育て家庭への支援
 - ③地域における体制づくり
 - ④要保護児童対策地域協議会としての業務

2 規定する支援対象者

- ▶ 支援対象者：妊産婦、こども、子育て家庭

役割

①地域のすべての妊産婦・子育て家庭に対する支援

- 状況・実情の把握
- 母子保健・児童福祉に係る情報の提供
- 相談等の対応、必要な連絡調整
- 健診等の母子保健事業

②支援が必要な妊産婦や子育て家庭への支援

- 相談、通告の受付
- 支援対象者との関係構築
- サポートプランの策定、評価
- サポートプランに基づく支援

③地域における体制づくり

- 地域全体のニーズ・既存の地域資源の把握
- 関係機関間の連携の強化

④要保護児童対策地域協議会の調整機関

- 地域協議会の事務の総括
- 支援の実施状況の進行管理
- 関係機関との連絡調整

特徴

- ▶ 令和6年4月1日から、様々な心配事を抱えたこどもとその家庭の相談に対応する「子ども家庭総合支援拠点」と妊産婦や乳幼児の保護者の相談に対応する「子育て世代包括支援センター」を統合し、こども家庭センターとして統括支援員を配置し、一体的な支援を実施している。
- ▶ 保健師、助産師、看護師、臨床心理士、歯科衛生士、栄養士、社会福祉士、精神保健福祉士、教員、ヤングケアラーコーディネーターなど専門職員を配置して、相談や情報提供を行っている。
- ▶ 母子保健・児童福祉の両機能の連携・協働を深め、虐待への予防的な対応から子育てに困難を抱える家庭まで、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを両輪として、切れめなく、漏れなく対応する。
- ▶ 家庭支援担当・母子保健担当とも地区担当制をとっている。
(おおむね中学校区)

多職種と協働するためのワンポイント

- ▶ 子育て関係のSOSがあれば、こども家庭センターに情報提供・相談をしてください。
- ▶ 虐待かな？と思ったら、こども家庭センター（家庭支援担当 ☎ 8 5 - 6 2 2 9）に相談してください。
- ▶ こども家庭センターの設置場所は、2か所です。
 - 市役所2階 こども家庭支援課内
母子保健担当・家庭支援担当
 - 総合保健医療センター（市民病院敷地内）3階
母子保健担当

こども家庭支援課業務分担

家庭支援担当

(市役所2階)

- 虐待対応
- 相談対応・ヤングケアラー相談
- サポートプラン作成
- 家庭児童相談
- 児童ショートステイ
- 母子・父子自立支援 等

母子保健担当

(市役所2階)

- 母子健康手帳交付・サポートプラン作成
- 子育て支援(育児相談等)

母子保健担当

(総合保健医療センター3階)

- 妊産婦・新生児訪問
- 産前・産後ヘルパー派遣事業
- 産後ケア事業
- 未熟児養育医療の給付
- 出産子育て応援交付金事業 等
- 乳幼児健康診査
- 乳幼児健康相談
- パパママ、日曜パパママ教室
- 離乳食教室
- こんにちは赤ちゃん訪問
- 妊産婦ケア(さんさんルーム) 等